

# 平成25年度 事業報告書

ケアハウス大慈

## 1. 《平成25年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. 《ケア理念》

「手から手へ 忠恕（真心）を込めて」

## 3. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、ご自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心を込めて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

## 4. 《最終目標》

～いきいきのびのびスマイリー運動～

●みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔。

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します。)

- ・生きがい・やりがいを大切にします。
- ・自分らしさを大切にします。
- ・笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします。
- ・みんながしあわせになることを目指します。

## 5. 《中期計画》

- ①ケアハウス大慈の理念や方向性を周知する。
- ②ケアハウス大慈「らしさ」を共有し、みんなで作り上げていくという風土を作る。
- ③スタッフが福祉職ということやケアハウス大慈に勤めていることに誇りを持てる様にする。

## 6. 《部門別重点目標》

<ケア部門>

【大慈らしさの追及】

①みんなが楽しく・働きやすい雰囲気を作る。

(離職率の低下 平成24年は約20%→平成25年約15%以下)

A) 個々のコミュニケーション能力向上を図る。

- ・内外の研修を活用する。

在職者77名、退職者12名、離職率15%という結果。

職場内研修は、全7回開催、1回に平均26名の参加。また、外部研修には、約半数の36名の職員が72件の様々な研修に参加し、個々のスキルを伸ばす機会を作った。

## B) スタッフ交流の促進

- ・親睦の場所を作る。(年2回→年3回) フロアでの交流会 (年2回)
- ・クラブ活動設立、継続 (バレーボールなど) (月1回開催)

フロアでの親睦会を開催できたフロアと開催できなかったフロアがあった。開催できたフロアでは、年2回開催することができた。また、クラブ活動設立については、バレーボールとフットサルチームを設立、ユニホームを作り、大会へも参加、他施設との交流の場所ともなり、活発に活動を行うことができた。

## C) スタッフの不安軽減 (問題定義、解決策の策定)

- ・定期的にフロア会議を開催 (月1回)
- ・各委員会を定期的に開催し困難事例においてはフロアを超えて検討する。

フロア会議を毎月開催できたフロアとできなかったフロアがある。フロアごとに特色はあるが、統一すべき部分を洗い出し、次年度は偏りがないようにしていく。

## D) その他

- ・モチベーションをアップするためにリフレッシュ休暇を取る。(月連続4日から5日)

有給取得率は、正規職員 57%、パート職員 79%、全体では 64%という結果。連続休暇に至っては、4連休以上休みが取れた方は、約半数に満たない 38 人という結果であった。

## ②個別ケアの実施の土台作り

### A) 基本的ケアの徹底、実施 (整容チェックシートを作成し実施率 80%を目指す)

- ・生活空間の環境を整備します。(過ごしやすく、安全・清潔な空間を作る)
- ・業務の改善 (基本的ケアを行う時間を作る)

年度初めに整容チェックシートを作成し運用を開始したが、チェックの実施が滞り、個々の基準や認識の違いで、ケアの内容を統一とまでには至らなかった。しかし、生活空間の環境は訪室毎に確認を行い整備に努めることができた。また、今回の取り組みで、基本ケアの徹底の前に、基礎となる知識が不足しているスタッフが多い事がわかり、今後、基礎固めの指導をしていくことに変更する。

### B) OFF-JTの実施

- ・理念の浸透・感染・虐待・コミュニケーション・専門技術、介護技術の向上・認知症ケアなど。

年間を通して7回開催、平均26人のスタッフが参加し勉強会を行った。各フロアの意見交換の場となりコミュニケーションの一環としても有意義に開催することができた。

## <環境整備>

畑の横にある敷地の工事を行い、ゲストが散歩やお茶、バーベキューなど楽しめるスペースを作り活用する。

庭のデザインや材料など検討を始める時期が遅く、25年度中の着工にらず、次年度に繰り越しとなる。

## <経営部門>

### ①在園率 95%以上、在籍率 97%を維持する。

#### A) ゲストの体調管理を行い、在園率 95%を維持する。

実績は、在籍率 97%、在園率 92.6%、入院率は 4%という結果であり、在籍率は達成することが出来たが、7月から9月にかけて入院者が多く、入院率が上がったため、在園

率が未達成という結果になった。空所が続いており、待機者に連絡を行うも、入居には繋がらず、次年度の大きな課題となっている。

B) 入院時は、スムーズに退院となるよう病院と連携し情報の交換を行う。

入退院時は、必ず病院と連絡を取りあうことで、相談員あてに連絡が来るよう窓口が一本化され、退院の調整が昨年度よりスムーズになった。

②待機者の確保に努める。(25名)

A) 見学者の増加

- ・常時見学の受け入れ体制を作っておく。
- ・毎月、事業所や病院などに空き状況を定期的にお知らせする。
- ・ホームページにて宣伝していく。

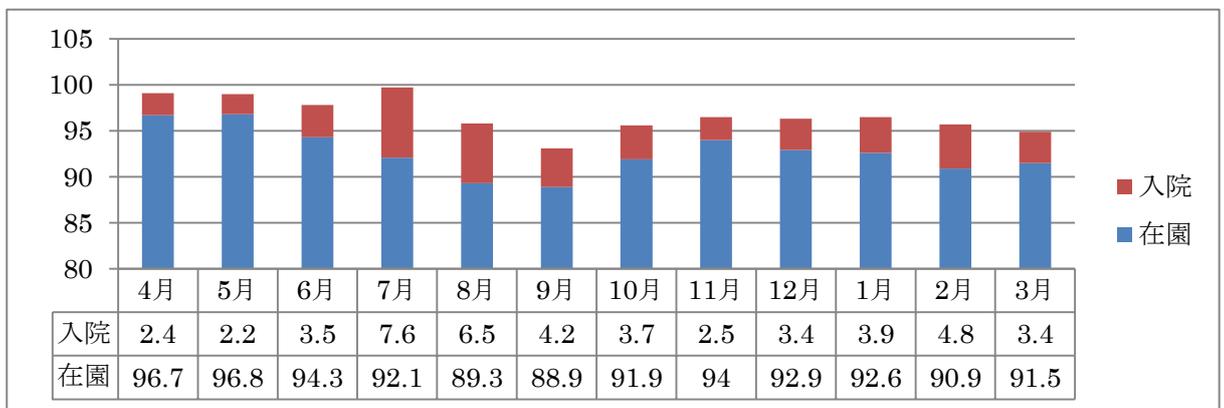
サブリーダーが見学対応できるように研修を行い、常時、対応できる体制を整えた。→毎月、FAXにて空所情報を流す、また直接訪問することでケアハウス大慈の特色を知らせていった。今後、ホームページを定期的に更新していくシステムを作成し、特色の更なるアピールを図りたい。

B) 見学者から待機者へ

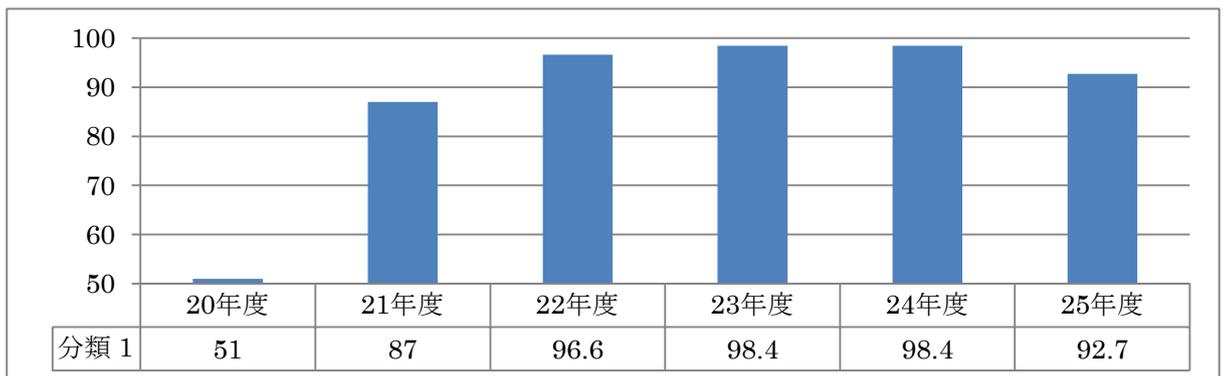
- ・相談簿に記入することを徹底
- ・見学者、相談者に対し定期的にお困りでないか連絡を入れる。
- ・アピールポイントを探し、宣伝方法の検討をしていく。
- ・ケアハウスたよりを発行する。

相談簿を記入し情報を共有することで確認のお電話や再来園の際、不手際がないように努めるとともに、待機者の状況、要望に合わせて定期的に連絡を取り合った。また、ケアハウスたよりを発行。各事業所に郵送し、ケアハウス大慈を知って頂くよう努力した。

● 25年度月別充足率表



● 年度別充足率推移



●介護度別年齢別等人数表

平成26年3月31日時点での在籍数

最高滞在期間5.88年

要介護度	25年度				24年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	12	2	10	85.5	11	3	8	85.5歳
支援2	7	3	4	93.1	14	4	10	86.9歳
1	19	2	17	86.9	18	5	13	85.6歳
2	12	7	5	89.2	18	7	11	87.8歳
3	14	5	9	88.3	10	4	6	86.7歳
4	12	3	9	88.5	11	1	10	88.5歳
5	15	2	13	88.5	13	1	12	87.1歳
合計	95	26	69	—	70	18	52	—
平均介護度		2.36	2.42	2.41		2.3	2.6	2.6
平均年齢		89.8	87.4	88.1		88.2歳	86.8歳	87.1歳
最高年齢		101	99			100歳	98歳	
最小年齢		80	70			76歳	69歳	

<栄養科>

【自分だったらと考えられる厨房になる】

①安全でおいしく、笑顔になれる食事の提供

- ・食材をきざむ事なく、常食・ソフト食・スルー食・ミキサー食（ゼリー食）すべての方が、何を食べているのかわかり、食べたいと思える食事の提供を継続する。
- ・細かいゲストの要望に答える事が出来るようになる。
- ・副菜のニーズに応えられるよう、一人一人の好みを把握する。
- ・厨房の業務を見直し時間を作ることで、副菜のニーズに応える。

細かいニーズに対応するため、厨房の全スタッフが把握できるよう札や表をつくり環境を整えた。そうすることで業務が円滑に流れ時間に余裕もできたため、現場に足を運び直接、意見を聞くことができた。給食会議やチェリッシュ委員会を通して情報の共有を行った。

②食事や食事行事について、チェリッシュ委員会や担当者会議にて、スタッフ同士の意見交換がスムーズに行えることで美味しい食事の提供を行う。

- ・ゲストの満足度を調査し（年2回）、おいしい又は満足と答えて下さる方を全体の75%以上を目標とする。

嗜好調査を5月と11月に行い、それぞれの結果の満足度は、79%と82%と大半の方に満足と答えていただくことができた。

●行事表

月	日	行事名	月	日	行事名	
4月	8	花見弁当 (6F)	10月	14	ティータイム (2F3F6F)	
	19	ティータイム (2F3F6F)		16	屋台風	
	23	ティータイム (4F5F)		22	ティータイム (4F5F)	
		バイキング (3F)		24	すなっくちいちゃん	
		25	バイキング (4F)			
5月	5	こどもの日メニュー	11月	25	バイキング (6F)	
	12	母の日メニュー				
	15	バイキング (4F)				
6月	11	食事会 (6F)	12月	19	クリスマス会 (2F)	
	13	ステーキパーティー (3F)		25	クリスマスメニュー	
	14	しゃぶしゃぶパーティー (5F)			クリスマス会 (3F)	
	16	父の日メニュー		28	もちつき大会	
	18	ところ天パーティー (2F)			31	年越しそば
	19	すなっくちいちゃん				
	25	バイキング (5F)				
	27					
	28					
7月	1	ケアハウス5周年記念バイキング	1月	1	おせち	
	5	そうめん (4F)		7	七草粥	
	7	七夕メニュー		17	災害食メニュー	
	22	土用の丑メニュー		19	新年会 (6F)	
	23	冷やしぜんざい (3F)		20	鏡開き	
	25	流しそうめん (6F)		29	バイキング・もちつき (2F)	
	26	バイキング (2F)		30	ぜんざいパーティー (3F)	
	27	百歳誕生日パーティー (5F)				
8月	17	納涼祭 (5F)	2月	3	節分メニュー	
	21	ティータイム (2F3F6F)		5	お茶会 (5F)	
	22	バイキング (6F)		6	お好み焼き・焼きそばパーティー (3F)	
	27	ティータイム (4F5F)		10	ティータイム (2F3F6F)	
	29	パフェづくり (2F)		13	バイキング (3F)	
				25	ティータイム (4F5F)	
		26	餃子パーティー (2F)			
		27	すなっくちいちゃん			
9月	10	バイキング (3F)	3月	3	ひな祭りメニュー	
	11	団子づくり (5F)		11	バイキング (4F)	
	14	みんなが大慈な感謝祭		12	おやつ作り	
	16	敬老の日メニュー		17	にぎり寿司パーティー	
	19	お月見メニュー		23	おはぎ作り (6F)	
	20	たこ焼きパーティー (2F)				
	24	焼き芋パーティー				

## <機能回復訓練>

ケアハウス大慈における機能訓練士の理念に則して、ゲストの全人的苦痛を可能な限り取り除き、QOLを高める為一人ひとりが求めている生活への思いを実現できるようサポートしていく。また、他スタッフと連携をより深め、情報の共有・事故防止などをチームでのケアを進めていく。

### ①ケアの質向上に資する取り組み

- ・ 移乗サポートなどゲストに「安心」を提供できるケア技術の指導を行うため、練習会を企画、開催する。また、フロア会議でも伝えていく。
- ・ ゲストのADLの低下を防ぐアドバイスを行う。
- ・ 生活環境面での助言を行い、協力し合う。

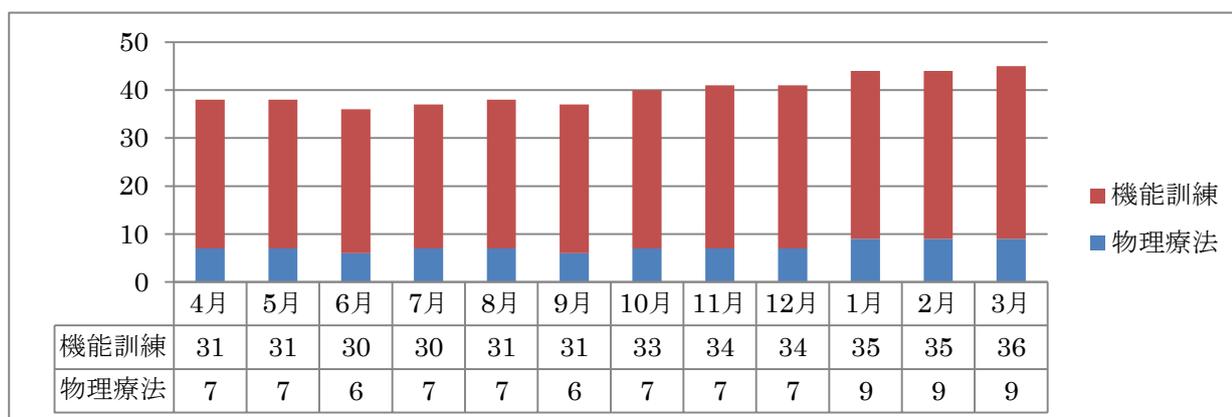
ゲストの姿勢保持や安全な移乗、床ずれを予防するための体位等、フロアでの練習会で指導を行った。9月より機能回復訓練士が増員されたことにより、機能訓練の実施者を増加させることが出来た。また、サポート方法、福祉用具の使用状況を確認する時間が取れ、現場の状況に即した指導を行うことでADLの低下予防に努めた。

### ②事故防止の提案・助言を行う

- ・ 事故報告書やドキドキから見える予測を立て、現場に指導、事故件数を20%削減する

事故報告書やドキドキの検証から見えるリスクの提案や具体策の提案を積極的に行うことができたが、事故の件数は昨年度 231件→248件と7.5%増となった。今年度より、服薬漏れを事故として報告をあげたことに起因する。

## <実績者集計>



## <看護部>

【体・心・現実が融合した、その人らしい生活を介護スタッフと共に作る】

### ①業務の効率化

- ・ 記録の記載の充実や見直しを行う。
- ・ 電子カルテへのスムーズな移行を図る。

PC入力に変更し2年目となり、記載の仕方や文言等の統一を行った。手書きからPC入力へ移行したことで情報の共有もできることとなり、業務を分担することで効率化が図れた。また必要な書類もシステム化し作成することができる体制を取れるようになった。電子カルテへの移行は終了し、服薬漏れの確認を行っている。

### ②コミュニケーション能力の向上

- ・ コミュニケーションの時間を作り、ゲストが望んでいる看護を見つける。
- ・ 健康に対する不安を見つけ、精神科受診だけでなく、言葉の治療を行う。

- ・ご家族との情報交換を密に行うことで信頼関係を築く。

ご家族面会時には、できるだけ声をかけ、状態や様子をお伝えすることは、好評を得ており、少しずつではあるが、信頼関係の構築に繋がっている。また、業務の間に訪室し可能な限りゲストとのコミュニケーションに時間を多く取った。安心感を得ることで頓服を服用しなくても済むケースもあった。

### ③介護スタッフとの意見交換

- ・現場に足を運びそれぞれの思いを大切に出来るような意見交換をする。
- ・誤薬等、医療面として関わりのある事故においては積極的に意見交換を図る。

時間のある限り、現場に足を運び介護スタッフと情報の交換を行い、それぞれの思いを確認した。その事がゲストに反映するまではいかないが、次年度につなげられるよう引き続き、意見交換を行っていく。事故に関する医療面からのアドバイスは、適宜、行うようにしたが、書面としては残しておらず、次年度からは、記録に残していくこととする。

### [年間業務]

月	項目	内容
5月	ゲスト定期検診	胸部X線・採血
6月・7月	スタッフ定期検診（全職員）	胸部X線・採血・検尿・検便・心電図、腰椎X線（CWのみ）
11月・12月	ゲスト・全スタッフ	インフルエンザ予防接種
1月	職員定期検診（CWのみ）	採血・腰椎X線・検尿

### [往診・受診]

曜日	午前 午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
火	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	月2回
		檜林義雄	歯科	毎週往診
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	坪内淳一	内科	毎週
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	坪内淳一	内科	毎週
		森 啓行	糖尿内科	毎週
土	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週

※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

### 7. 《行事等の実施内容・反省点》

- 買い物ツアー
- 映画上映会
- シルバー体操
- フラワーセラピー
- ミュージックセラピー
- 絵手紙

○その他ボランティアの方による慰問

月	行事名	内容
4月	花見 (全フロア)	フロア毎にお弁当を持参したり、現地で昼食を取ったりと場所も日岡山公園、しあわせの村、垂水公園と様々である。予定よりも開花が早く、外出当日には葉桜になるなど残念な結果となった日もあるが、花より団子ということで、おいしいお弁当を食べながら笑顔がたくさん見られた。
5月	こどもの日を語ろう (2F)	こどもの日にちなみ、質問シートを作成し幼い日々や若かりし日々のお話をお聴きした。ゲストの思い出と笑顔を引き出すことができ、ご家族からも知らなかったと驚きの言葉が聞かれた。
	外食ツアー (3F)	恒例となっている毎年の寿司ツアー、参加を楽しみにされている方が多く、「おいしかったです、また来年も行きたい」との声が聞けた。
	外食ツアー・いちご狩り (4F)	高級な寿司官太に行く、お寿司はやはり皆さんお好きな様子で、普段はサポートが必要な方がご自身で召し上がっている姿には驚きと新しい発見があった。いちご狩りは、ご家族様にお土産に買って帰るゲストの姿もみられた。
	まんぷくツアー (5F)	とんかつを食べたあと、スイーツを食べにいくが、甘いものは別腹とケーキを軽く食べられる姿は印象的であった。
	お好きなコースに参加しよう (6F)	喫茶外出・買い物・チェリッシュでお茶会とコースを選択できるようにした。女性ゲストは買い物を選択される方が多く、意思疎通が難しい方もウィンドーショッピングを楽しんでおられる様子が伺えた。
6月	ところてん作り (2F)	ところてん突きを用意し、ゲストに突いて頂いた。色々なトッピングを用意し選択して頂く事で、「懐かしい」や「こんなの初めて」との声を聞くことができた。
	ステーキと魚ランチ外出 (3F)	ステーキと魚を購入しチェリッシュで召し上がって頂いた。事前にどちらが食べたいか聞き取っており、外出が苦手な方もいつもと違った雰囲気ですと違う食事をとり気分転換ができた。
	お菓子作り (4F)	たこ焼き器でカステラを焼いて食べる、いろいろなトッピングを用意し個々に選んでもらう。
	しゃぶしゃぶパーティー (5F)	高級なお肉を用意し、みんなでしゃぶしゃぶをする。おなか一杯とおっしゃったゲストにおかわりのお肉をすすめると、「じゃあ、もう一枚だけ」と食され、「これは美味しい」と好評を得た。
	バーベキュー (6F)	恒例となっている農業公園にバーベキューに出かける。毎年来ているため、ゲストも安心して参加、菊水の高級牛とワインに大喜びされていた。食後には、ソフトクリームを召し上がる方もいらっしゃった。
7月	須磨水族園へ行ってみよう (2F)	少人数で実施したことにより、ゆっくりと過ごすことができた。イルカショーでは、イルカよりも見に来ている子供たちを見て、喜んでおられた。また、「水族館よりもおいしいものが食べたい」といわれた方には、ほうらく堂へ行き、おまんじゅうを食べていただくことができた。
	冷やしぜんざいパーティー (3F)	普段から硬いものは食べられないとおっしゃるゲストが白玉を美味しく召し上がられた。少し食べやすいようにと小さくすると「大きい方がいい」と言われるなどお好きなものはそのまま食べたい様子が伺えた。

	七夕祭り (4F)	七夕の短冊に願いを書いたり、飾りつけをしたりし雰囲気づくりに努めた。
	買い物・喫茶外出 (5F)	体力的に他ゲストとの外出が難しいゲストを対象に近隣のコーヒー専門店に出かける。参加ゲストのお一人より、「盆と正月がいつぺんに来たみたいや」との言葉が聞かれた。
	お誕生日パーティー (5F)	100歳を迎えるゲストがいらっしゃることから、ご家族をお招きしチェリッシュで全ゲスト(フロア)と一緒に祝いパーティーを開催した。ゲストにもご家族にも喜んでいただくことが出来た。
	流しそうめん (6F)	チェリッシュにて本格的な流しそうめんを行う。スタッフが流し、ゲストが受けたり、とれなかったりと笑いながら食べる楽しい企画となった。
8月	美味しいパフェ作り (2F)	普段、食事量が少ないゲストもアイスクリームはお好きな様子で、食べていただくことが出来た。ご自分でトッピングをするという企画で、どれにしようか、迷っている姿も見られた。
	買い物ツアー (3F)	数人ずつで買い物に出かける。購入するものを事前にメモし、紙をみながら楽しそうに買い物する姿が見られた。また、「買い物に来るとあれもこれもほしくなる」と笑顔が見られ、気分転換にもなった様子。
	かき氷 (4F)	かき氷機を使用して、目の前でかき氷を作る。シロップは5種類から選んでいただく。暑い日であり、見た目も含め、涼しさを感じることが出来た様子。
	納涼祭 (5F)	リビングに提灯を飾り、スーパーボールすくいや射撃の屋台を作り、皆で夕食を食べた。清掃職員やスタッフの子供の参加もあり、終始にぎやかな雰囲気であった。
	みんなでかき氷 (6F)	リビングでかき氷を食べる。普段、居室からあまり出てこられない方も出てこられるなど、気分転換が図れた。
9月	たこ焼きパーティー (2F)	たこ焼きの中にツナ、ウィンナー、チーズ、タコと種類を増やすことでゲストにめずらしいと喜んで頂けた。目の前で焼くことで「焼きたてで美味しそう」とゲストの声もあり、普段食事摂取量が少ない方もおかわりをされる姿が見られた。
	水まんじゅうパーティー (3F)	毎日行っているリハビリ体操後にフロアで水まんじゅうと緑茶を淹れ、食べて頂いた。普段、食事量が少ないゲストも自らまんじゅうを持ち、美味しいと食べられていた。「やっぱり和菓子の方が美味しいね」「涼しそうでいいね」との声を頂く事ができた。
	お月見団子作り (4F)	生地から団子を作りゲストにも一部お手伝い頂いた。飲み込みがし易い様に生地を作った。ゲストより「とても美味しく満足です。晩御飯食べられるかしら」等の声が聞こえた。
	団子作り (5F)	ゲストと共に白玉団子を作り皆で食べた。なかなかきれいな球形にならない白玉に苦戦しておられる様子が印象的であった。また、トッピングに餡子を用意していたが、皆で1kgもの量を平らげた事には驚かされた。
	ミニホットケーキとミニワッフルを作ろう (6F)	全ゲスト対象でホットケーキとワッフルを作った。トッピングでアイスクリームやあんこを用意していたが、普段提供する事がほとんどない為、おかわりされるなど、トッピングだけ何度も食べられるゲストがおられた。甘い物を食べると、自然と笑みがあふれるのか楽しく行

		う事ができた。
10月	ハロウィンパーティー (2F)	スタッフが仮装しフロアで行った。借り物競争では借り物を仮装グッズにし、借りてきたものでゲストに仮装してもらった。かぼちゃの玉入れも行い、みんな笑顔で球を投げていた。フロア全員が仮装し、楽しい時間と写真が撮れた為、ご家族からも写真がほしいという声があった。飾り付けが少なかったのは残念であった。
	外食ツアー (3F)	10名のゲストと4日間で外食ツアーに出かけた。和食、お寿司、お好み焼きと、外食先を選択できた事もあり好評を得た。
	花鳥園へ遠足 (4F)	ペンギンや鳥たちを見てゲストも自然に笑顔になっていた。また、バードショーではフクロウがすぐ側を飛び交う光景に驚かされていた。
	運動会 (5F)	運動会を予定していたが、当日スタッフの欠勤や歯科往診と重なり、中止する事となった。
	秋の運動会 (6F)	全ゲスト参加で行った。普段、居室で過ごされているゲストもリビングへ出て来られ参加された。競技内容はリハビリを兼ねた内容にした為、ゲストも意欲的に参加された。
11月	紅葉狩り (2F)	数日に分けて離宮公園まで紅葉狩りに行った。寒さからか不穏になり大きな声を出される方がいらっしやっただので、予定よりも早く帰園する日があった。他の日にはローズフェスティバルをみて「きれい。」「来てよかったね。」とゲストから喜んで頂くことができた。レストランでの昼食も美味しいと好評だった。
	紅葉外食ツアー (3F)	3名程度のゲストと5日間、三木道の駅へ出掛けた。前半、紅葉はちらほらと言った感じであったが、後半になるに従い見頃を迎え、食事と共に楽しむことが出来た。
	外食ツアー (4F)	ごちそう村という所へ外食に出かけた。普段あまり召し上がれないゲストも、この日だけは別とばかりに食欲もあって良く召し上がられていた。「毎日こんな食事でもいいわ」とあるゲストは言われていた。
	淡路遠足 (5F)	南淡路へ鯛料理を食べに出かけた。たくさんの新鮮な鯛料理に「美味しい」「また来たい」と大変喜んで頂けた。
	そうだ！淡路に行こう！ (6F)	お元気な方を対象に、淡路の散策・外食に出かけた。花さじきに行き散歩をされたり、女性ゲストは観覧車に乗ったりと、普段味わえない事をされ楽しんでおられた。食事も、普段少ししか召し上がらない方が「スプーン頂戴」と言われ、頬張る姿もみられた。
	本格的なコーヒーを求めて・・・ (6F)	淡路へ外出できなかったゲストを対象に行った。体調不良もあり、予定より少ない人数しか参加できなかった。コーヒー好きな方が参加出来、一口飲まれた途端「高いコーヒーは美味しい」と言われたのが印象的であった。
12月	2階のみんなが大慈な感謝祭	配膳時、食事の取り分け方法を把握できておらず手間取り、開始時間が遅れた。クリスマスプレゼントや旗揚げゲーム、スタッフからゲストへの「ありがとう」の歌等、楽しんで頂いた。ゲストから感謝のお言葉・笑顔を普段よりたくさん頂くことができた。
	クリスマス会	ビンゴゲームでプレゼントを抽選するフロアもあれば、スタッフがゲストに合うものを用意する等、企画も食事もフロアの特徴がよく出ているクリスマス会となった。
1月	餅つき大会 (2F)	チェリッシュで餅つきを行った。餅をつく際には「よいしょー」の掛

		け声がゲストからあり、盛り上がる事ができた。餅を丸める際には「やりましょか」とゲストからの参加もみられ餅をお代わりされるゲストも大勢いた。
	初詣 (3F)	9名のゲストを3班に分け諏訪神社を訪れた。3班に分けた事から参拝時間は短かったが、面会を訪れた家族と一緒に参加された方もいらっしやり楽しむ事が出来た
	ぜんざいパーティー (3F)	フロアにてぜんざいを食べながら、福笑いを楽しんだ。なかなか思うようにならない、おかめの顔に笑いの絶えないパーティーとなった。
	書初めと正月遊び (4F)	自分で書けるゲストが少なかったため、職員が代筆を行う場面も見られたが、終始笑顔が絶えず今年一年頑張ろうと言う意識を共有できた。
	初詣と喫茶へお出かけ (5F)	2日間に分けて初詣と喫茶店に出掛けた。当初、考えていた喫茶店ではなく初めて行く店にしたがゲストに好評で「美味しかった」との声を頂けた。
	新年会！すきやきを食べて今年もがんばろう！ (6F)	全ゲスト参加で、フロアですき焼きを食べて頂いた。普段あまり召し上がらないゲストも「美味しい！美味しい！」と言われ、黙々と沢山召し上がって頂けた。
2月	美味しく餃子を作りましょう (2F)	フロアでは食べる機会のない餃子作りにはゲストからも「私がする」という声があり、ゲスト間でも交流を持つ事ができた。普段食事摂取量が少ない方もおかわりをされ喜んで頂く事ができた。
	お好み焼き・焼きそばパーティー (3F)	昼食にお好み焼き、焼きそばをフロアで焼き、皆で食べた。各テーブルにホットプレートを設置し、お好み焼きはゲストに焼いて頂いた。自身で焼いたお好み焼きは食が進むようで3枚もぺろりと食べるゲストには驚かされた。
	お茶会 (4F)	スタッフが抹茶を本格的に作って、和菓子と一緒にゲストへ提供した。みなさんとても美味しいと超絶賛だった。特に普段あまり表情に出さないゲストもにっこりされて食された。
	豆まき (5F)	スタッフが鬼に扮し、ゲストに玉をぶつけてもらった。ここぞとばかりに鬼に玉をぶつけ、ゲストにも笑顔がみられた。また、その後に桜餅と草餅を食べられ、美味しそうに頬張っているゲストの顔が印象的であった。
	豆まき (6F)	いつも下ばかり向かっているゲストも、鬼に扮したスタッフが出てくると顔をあげ、必死な表情をされ大きな声で「鬼は外！」と言われ楽しんでおられた。
3月	松井先生とお茶会 (2F)	松井先生にお抹茶を点ててもらった。目の前でお抹茶を点てることでゲストから「すごい」と声があった。どら焼き作りにゲストも参加しゲスト間での交流もみられた。スタッフからは大正琴の演奏を披露。大きな声で歌って下さるゲストもおり盛り上がる事ができた。
	ひな祭り (お茶会) (3F)	ひな祭りの和菓子を購入し、お茶を飲みながら漢字クイズを楽しんだ。出題された漢字から、穏やかな顔で思い出ばなしをされるゲストが印象的であった。
	大福作りと写真撮影 (4F)	大福作りについては、作業の細かさに加えゲストの要望もなかった事により、スタッフが作ってお茶の時間に提供させて頂く、その後、写真撮影では、手作りの衣装を身に着けて頂き撮影させて頂いた。ゲス

		とも写真撮影ともあって、化粧をされる等意欲的でとても喜ばれた。
	カラオケでストレス発散 (5F)	お元気なゲストを中心に初めてカラオケボックスへ出掛けた。前月よりカラオケに出掛ける話をしていた為、時間があれば歌の練習をするゲストもお楽しみにしておられた。当日、スタッフもモノマネをする等し、とても楽しんで頂けた。帰園後も「また行きたい」と言って頂けた。
	手作りおはぎでお茶会 (6F)	全ゲスト参加で行ったが、甘いものがお好きでない方もおられ、数名は不参加であったが、想像以上に好評化を頂き「売ってるやつみたいね」との声も頂けた。おはぎを作る作業では男性も手伝ってくださり、妙な形のおはぎを見て楽しんで頂けた。

## 8. 《会議の実施内容・反省点》

### ①チェリッシュ委員会 (毎月)

→毎月、体重測定を行い、それを元に食事の内容や要望、希望に添えるように方法を検討している。事業目標としてあげていた、おやつ作りも開催でき、喜んでいただいたので定期行事として行っていく。

### ②行事委員会 (奇数月)

→毎年、恒例の夏祭りを9月に実行する、今年は新たな取り組みとして各フロア対抗による出し物を披露。ご家族に大変喜んで頂く事が出来た。定例行事となっている、もちつきも、フロア対抗相撲を企画し、大盛況を得ることが出来た。また、日中のレクや慰問に関しても検討が必要と思われるため次年度検討する。

### ③感染防止対策委員会 (毎月)

→今年度は、感染症を発生させることなく1年を過ごすことが出来た。マニュアルを見直し必要物品を確認し、毎日の手洗い・嗽の励行を促した。また、日々の掃除にも力をいれ、常に消毒を行った。

### ④RM委員会 (毎月)

→事故報告書・ドキドキ報告書の検証を行った。次年度は各部署にて自己検討の実施し、事例報告会を開催したい。

### ⑤マナーアップ委員会 (毎月)

→「です。ます。〇〇さん」で話す取り組みを行ったが、全スタッフの言葉遣いが統一することができなかった為、次年度に持ちこす事となった。

### ⑥設備・災害委員会 (毎月)

→設備においては、施設内の物品や物については、定期的に確認を行い大きな修繕になる前に発見することに努めた。災害については、年間計画通りに訓練を行った。またBCP計画を作成。今後、適宜見直が出来ることが鍵となる。

### ⑦入浴委員会 (偶数月)

→各フロアの機械浴・中間浴・一般浴の調整を行った。また一人一時間の枠を取ることでゆっくりと入浴をして頂いた。

### ⑧排泄委員会 (奇数月)

→個人に合わせた排泄サポートを検討する機会を作り、また手順について確認し合った。

### ⑨エコ・節約委員会 (不定期)

→各フロアで節約している所を確認し全体で取り組めることは、エコ委員を中心に発信できた。タオル、リネンの使用量削減に貢献することが出来た。

### ⑩CCP委員会 (毎月)

→CCP委員会で作ったプランを継続し、状況の改善がみられるケースが出てきている。2月にバリ

デーションに関する研修があり、委員を参加させ、研修で得た意識を委員会で共有した。

⑪大慈な会議（毎月）

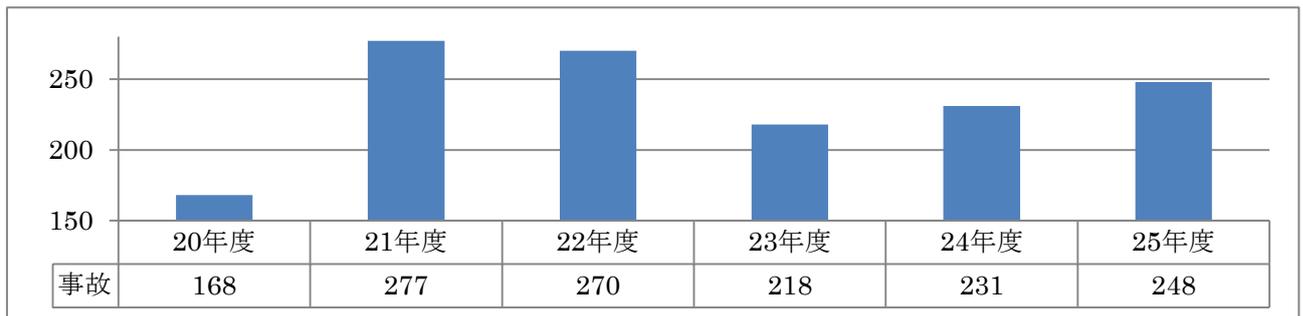
→施設長、副施設長、リーダー、サブリーダーの各部署代表が出席し、報告・連絡・相談を行った。

9. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

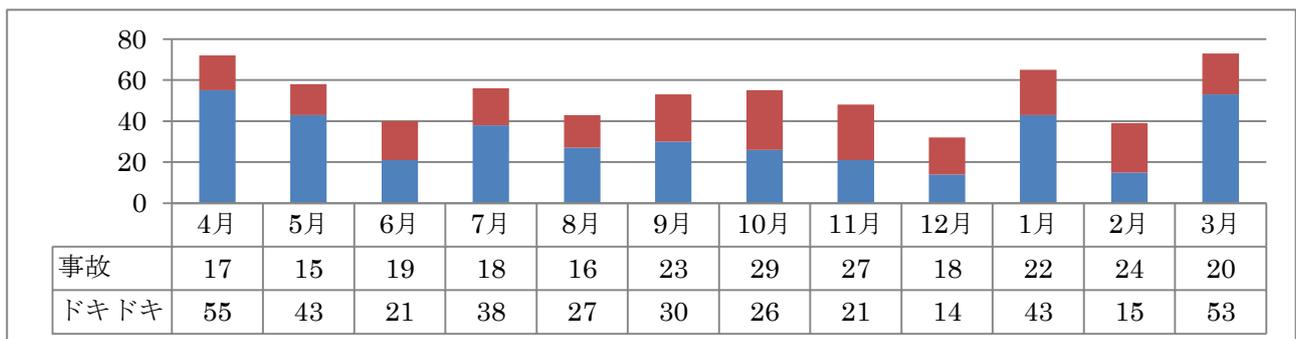
年度半ば頃から、事故報告がドキドキ報告を上回る状況となった。ドキドキ報告書の提出を促し、一時的には増加するものの、再度減少するといった状態を繰り返している。次年度は、ドキドキ報告書件数を継続的に高い水準とするシステム構築を図りたい。



25年度				24年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	634件	248件	386件		1,426件	231件	1,195件

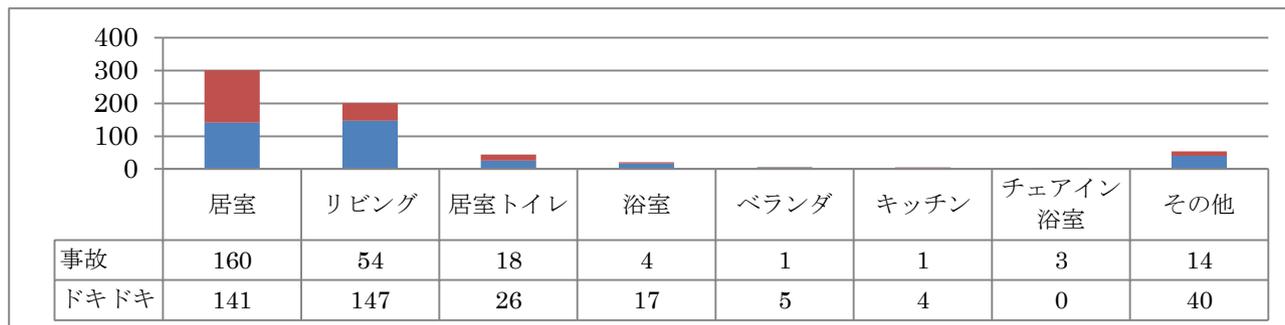
○内訳

平成25年度				平成24年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	96件	59件	37件	2F	133件	51件	82件
3F	109件	31件	78件	3F	184件	36件	148件
4F	173件	45件	128件	4F	358件	57件	301件
5F	73件	31件	42件	5F	101件	22件	79件
6F	183件	82件	101件	6F	650件	65件	585件



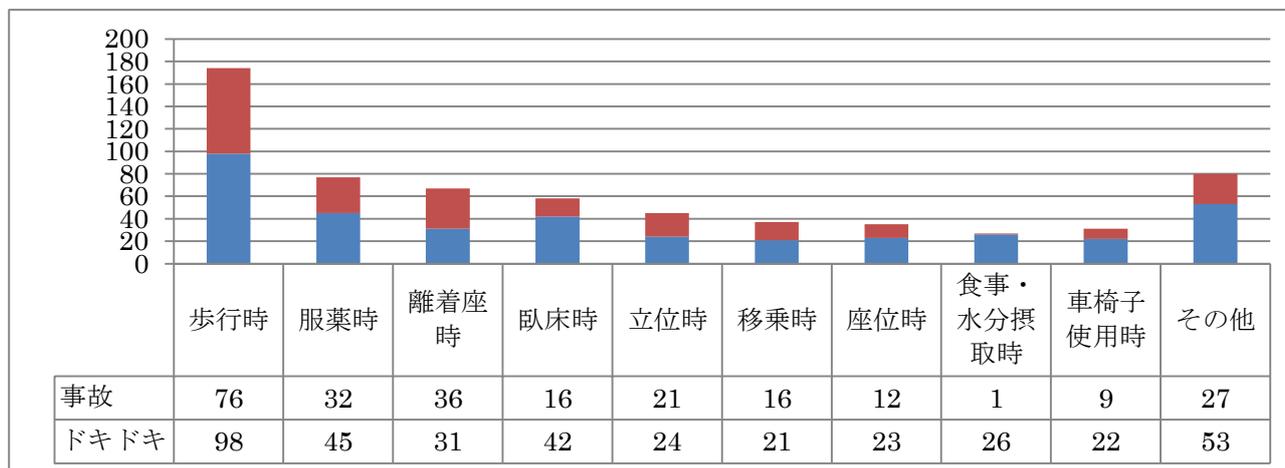
## ②発生場所別件数

居室、リビングの報告件数が群を抜いて多くなっている事においては前年度と変化はないが、居室の報告件数において事故がドキドキを上回っている。これは今年度、ドキドキ報告の件数が少なかったことを如実に表すものとする。



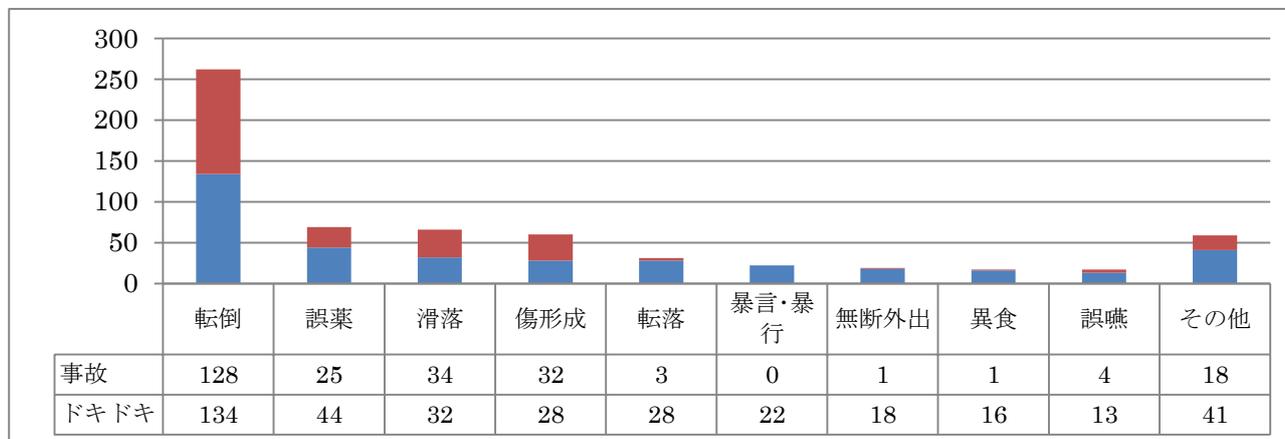
## ③発生状況別件数

服薬時の事故、ドキドキ報告件数が前年度比約 50 件増加している。服薬終了まで確認していたつもりであるが、錠剤が飲み込めておらず暫く時間が経過した後、口からこぼれ落ちたと思われる溶けた錠剤が発見される等の報告が多く見られた。



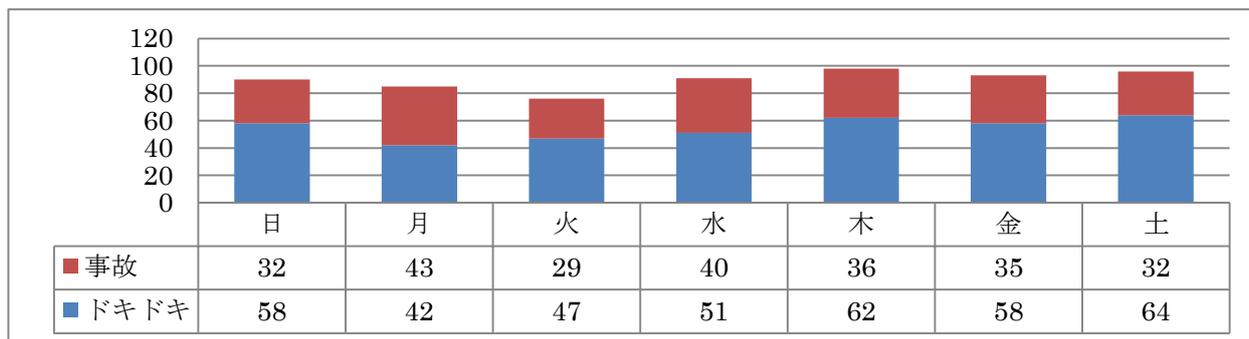
## ④発生内容別件数

誤薬の事故件数が前年度比 20 件増加している。これは発生状況別にも記載したが、今年度、錠剤が落ちている等の報告が多く、この事において誤薬と言う項目で集計した事からと考える。



⑤曜日別件数

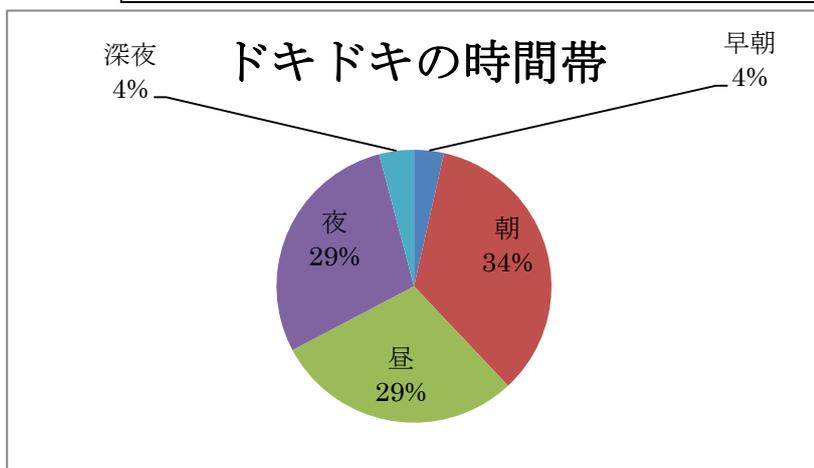
各曜日事故、ドキドキの報告件数を合計すると 90 件前後となる。曜日による業務に違いは見られない為と考える。



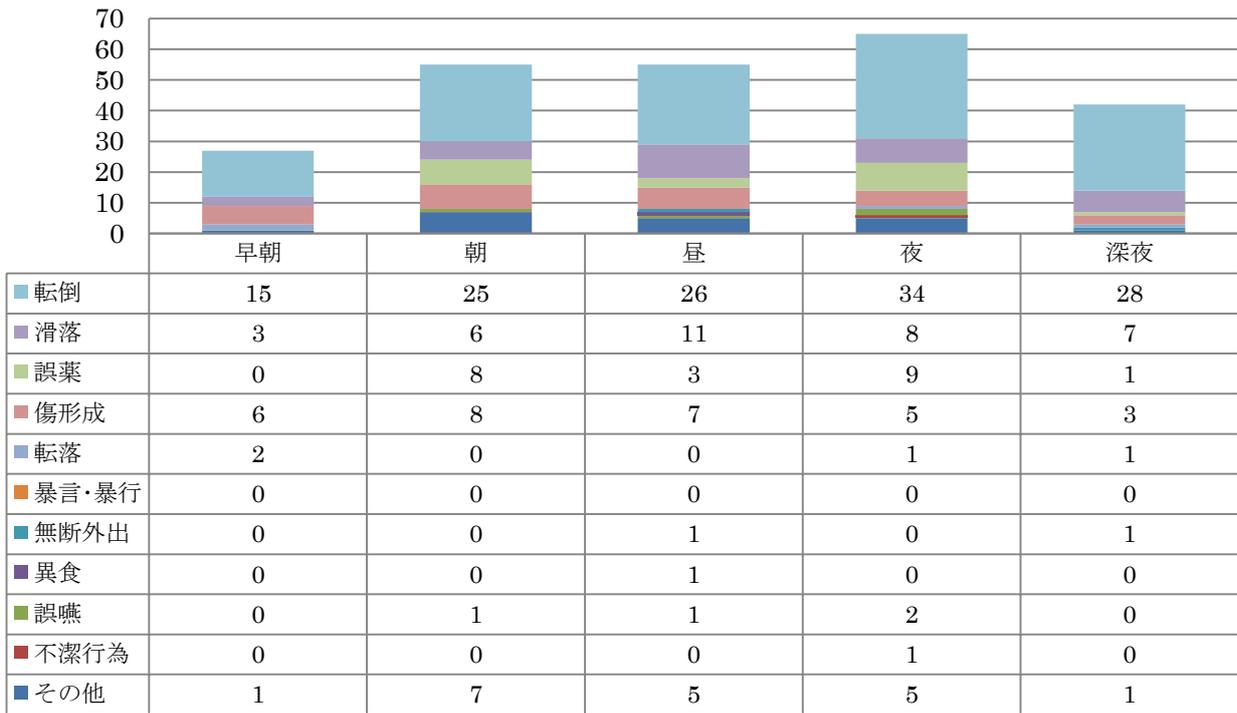
⑥時間帯別件数

深夜、早朝においては事故報告がドキドキ報告を上回る結果となっている。この時間帯(23:00~6:59)はスタッフが各フロア一名である事、ゲストも大半の方が居室で過ごしており発見が難しく、ドキドキでは留まらず事故に至っている事が、相対的にドキドキの報告件数が減少した事が原因と考える。

ドキドキ、事故共に昼の時間帯が最も多い。やはり、ゲストが活動している時間である事が要因であるが、朝の時間帯は報告件数は少ないが、報告件数から事故の割合を考えると45.7%と割合が最も高く、居室内での動きだしの把握が難しくドキドキで留める事ができず事故に至りやすい時間帯である事を表している。



### 事故の時間帯別内訳



#### ⑦まとめ

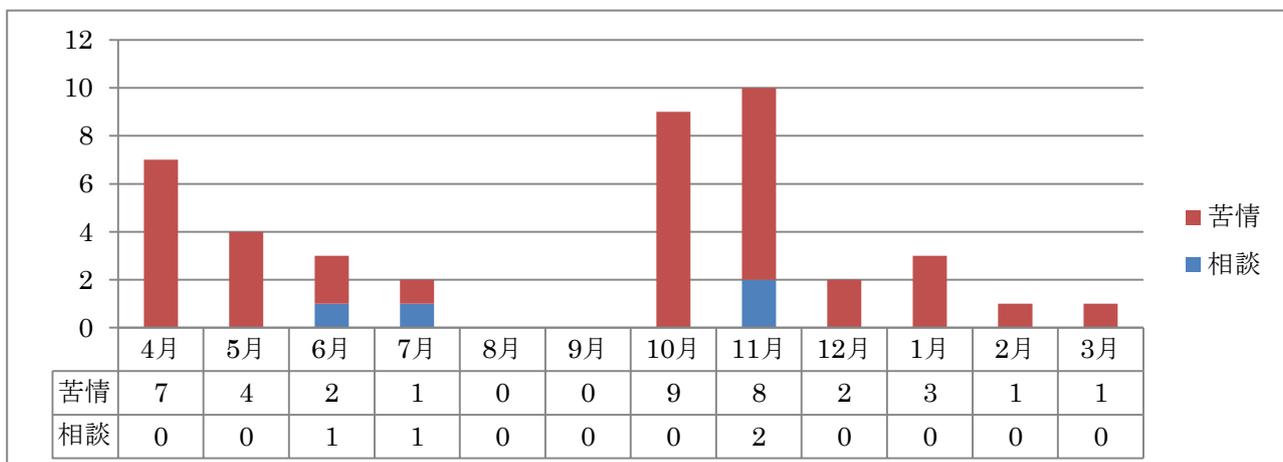
今年度は、ドキドキ報告の件数が減少し、事故報告書の件数を下回る月も見られた。提出を促すと一時的には改善するものの元の状態に戻る。次年度は事故検討の時間を作り、報告書の意義をスタッフに示す事、報告件数の年間目標を設定する事、また継続的に一定以上の報告が得れるようシステム構築を図って行く事で事故の発生抑制に繋げたい。

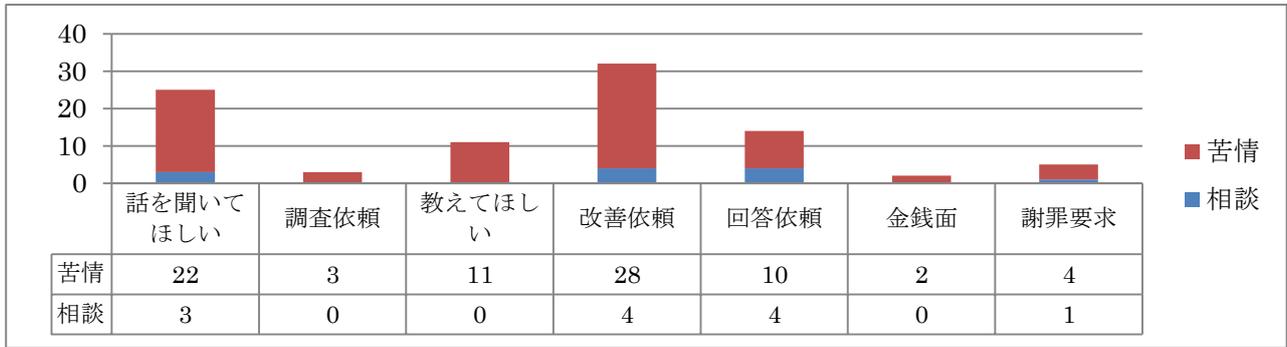
#### 10.《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

##### ○報告件数

報告件数	平成25年度			平成24年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	42件	4件	38件		20件	5件	15件





○主な内容

報告・連絡のミス、説明不足、伝え方の問題等の内容が多く、大半は、その場で謝罪し、説明、今後の対応を伝えることで大きな問題となっていない。問題が大きくなった苦情に関しては、家族との関係が出来ていないままの苦情と聞く態度が悪いとの内容であった。

○まとめ

施設長が対応したものが4件、その他は相談として挙げているが、中には苦情と捉えたほうが良い事例も何件かはある。苦情相談を記入した場合は、情報を共有できるように各部署へ回覧し、その都度、対応策をフロアに伝え考えることで、同じ苦情が出ないように努めた。また、苦情の内容を悲観的にとらえるスタッフにも自分たちが気付いていないことを教えてもらうことで成長すると伝えていった。日頃から、ご家族とコミュニケーションをとる事で、大きな苦情が小さな相談ですむように、施設全体で取り組んでいく。

1 1 ・総括

ケアハウス大慈「らしさ」を追求するにあたり、まずは、スタッフの定着、環境整備、個別ケアの土台作りを目標とし、離職率の低下と働く環境を整えるため、交流会、クラブ活動を設立する。また、スタッフ全員に、悩んでいることはないか、働きやすい職場にするために何か提案はないかなど面談を行った。結果、離職率は15パーセントと目標数値内におさまったが、12名の退職者が出てしまうという結果である。個別ケアの土台作りでは、整容に力を入れていたが、基本的な整容や介護、福祉用具の使用方を知らないスタッフがいることがわかり、目標達成には至らず、次年度の課題が見える結果となった。実績は、在園率が未達成という結果になった原因は、入院が夏から秋にかけて7名から9名となり、10月頃より空所が続いたのも原因の一つである。次年度には、ショートステイの受け入れや体験入居、短期での入所も取り入れ、施設でできるサービスを検討し、入居につながるよう取り組むことで、最終目標である、みんながいきいき、のびのび、笑顔で過ごせる、終の棲家であるよう、スタッフの育成とケアの質向上に力を入れていきたい。